

*Organo de Hokkaido Esperanto-Ligo.*

# LEONTODO

N-ro 45

1971 DEC

## \* アイヌ民話エス譯軌道に \*

第35回北海道エスペラント大会で可決された、アイヌ民話の共同翻訳について、その権意当すテクストを検討していましたが、その結果知里幸恵編「アイヌ神譯集」(弘南堂書店発行)を認めたことにしました。「其の昔此の広い北海道は、私たち先祖の自由の天地でありました。」とアイヌに生まれアイヌ語の中で育った知里幸恵が、滅びゆく民族と言語を哀れみつつ書き残したこの神譯集こそ、私たち道内に住むエスペラントが、力を合わせて譯出するのにふさわしいものだと思います。

内容は、13のyukotと序文その他からなっています。このうちすでに「銀の滴降る降るまほりに」はS-10星田と私が、「サンパヤ テレケ」はS-10山賀が、「此の破赤い赤い」はS-10星田が、「トーロロハンロクハシロク！」は私が譯出または譯出中です。

譯出審査の分担、譯語の調整その他の共同研究相談のために「アイヌ民話エス譯研究会」を作りたいと思います。できるだけ多数の参加を望みます。翻訳参加希望の方は記入をえて、私まで来年1月迄にご連絡下さい。記入は、Leontodoに発表する予定です。

(千秋 池本)

第「アイヌ神譯集」 ¥450 札幌市北12条西4丁目 弘南堂書店  
発行 振替(小樽) 3515 Tel. 711-9429

アイヌ民話エス譯研究会事務局

066 千歳市本町4-7-6 池本盛謙 Tel.(01232)3-3434

## \* 2回連盟委員会報告

1971年11月14日

中央タイピスト学院にて

出席者：高橋 (pres.)、沢谷 (secret.)、市川 (函館)、山賀 (小樽)、星田 (苫小牧)、池本 (千秋)、それに observanteとしての堀玉 (苫小牧) の各氏。主として機関紙の発行について討論が集中しました。

### 1 機関紙の発行体制について

各ロンドの持ち回りなどによる運行の方法などいろいろ考えられますが、各ロンドの“お家の事情”を考えてみると、実際可能なロンドはほとんどないのが現状。したがって、当面は、事務局がその運行に努力することになりました。ただし事務局の負担をなるべく軽くするために、投稿者の方はできるだけ、エス文の場合、タイプをもっている人はタイプで、和文の場合は手書きで、

清書し、そのまま墨写スリックスにかけ原稿玉づけきように協力してもらうことになりました。美しく読みやすい印刷にするため、連盟として中古の和文タイプの購入を検討していくことになりました。

### 2 「北海道エスペラント小史」の復刻について

タイプ墨写印刷の様で S-10 Ikemoto が費用の算定について調査することになりました。1935年代までの各地のエス運動のみならず、1945年までの記録を今の方に關係者から収集していくということも話題になりました。

## 新会員自己紹介

笛村貞雄さん(札幌エス会)

満62才と何ヶ月。これから皆さんの仲間入りして Esperanto を習い初めるとは、異例のことかも知れませんが、自分としては特別気負った気持ちなど少しもありません。直接の動機は、近く独りでヨーロッパを主として出来れば一通り海外を歩いてみたいと思いつ立っていることです。英語を話しても通じない国々に行つた時、ただ漠然と観えていたりその國の人々の心を知りたいこと、自分を理解してもらえたうらやまに楽しい思いも思うのです。そしてあわよくば、その國の人々の中に同じように Esperanto を話して下さって、こちらのこととも理解しようとする努力をして下さる様な、そんな広い心を持つた人達と一緒に興味を持っています。例えば國々の食べ物のことです。所謂食通のように珍らしい食べ物を探そうなどといふことはありません。人々が日常どんぐりや環境条件はどうなものか? 長命者の多い國は? というような國の児童の在来の郷土食などを知りたいのです。また自分が、今關係をもつてゐるところでは、今は世界共通になつてゐるような贅沢食物ではなく、その國の福祉の關係のことなど、本で見る以外にこの自分で見て実感をもつて本に書かれています。それも特に英語国ではない東欧諸國やその他の國々でいいと思つていて、それで、特に英語国ではない國々の事情をひいま見るだけでもいいと思つて、それに専門にしている学者や福祉事業家のような研究的な国苦しい考え方などももつてはいません。それに体を無理しないようなスケジュールを組む時はリュック(リュックを背負って歩くつもりです)の肩にしのぼせた日本製の精巧な釣具で、よい水があつたら仲間を求めて其に釣をやってみたい等の野心もあるのです。果して Esperanto が、どの國でこのようなことに役立つのかまだ見当がつきません。

Esperanto は、習つてみて大変やさしい言葉だと思いました。ただし言つても語学ですから根をつめて熱中する期間がどうしても必要だと思いますし、繰り返えして頭にたたき込むことが大切だと思いますが、ただいまの生活がそのような時間の余裕がないので心細く思っています。

結局西も東もわからぬまま、知らぬ土地に立つてみて、辞書をひきひき尚言で語り、帰ってきて少しあからりはじめるといふようなことをするのではないかと思いますが...。若し少しでも覚えただけ友を広く海外に求めて通信を交したり、会合に出たりして自分の生活が心温く豊かになるよう努めたいと思います。

三浦邦子さん(無所属=individual member)

一つの言葉で世界各国の人々の意志の疎通によつて、平等に話し合

えることは、だれでもが長い間熱望してきたことだと思います。私も心から世界中の人々が平等であり、かつ平和であらねばならぬと思います。エスペラントを目にしたのは、友人と時々「平等」とか「平和」とかの問題で色々と話し合っていた時です。その時は一つの「暗号的」存在にしか思えず、ハッキリ「言葉」という実感がわかれなかった。今もまだ「あるようだ」、「ないようだ」存在にしか思えない。しかしエシヤリ、ある種の人間にとて無関心ではいらねばい、なにかかこのエスペラントにあるような気がする。

私は鎌倉で、受講生の一人として学んでいたのですが、色々な事情もあって、やったりやらなければなり、だらだら時の流れにのせてせんとか六ヶ月の初級講習を終えてきましたつもりです。でも現在は生活に追跡、エスペラントも御無沙汰している次第ですが、やはりエスペラントの展望を願うならエスペラントにおける言葉の積み重ねが必要と思う。今までぼちぼち勉強しております。将来において、世界平和、平等を願う一人として、私なりの強さと広さを持って続けて行くつもりです。  
(Miura Kuniko; 063 札幌市琴似町発寒 市営住宅1-206)

### (ひとこと ひとこと)

Leontoda受けとりました。分厚い内容で大変だったことをどう。ところで、アイヌ民話のエス訳を読ませてもらいましたが、「Aino-Kalkulado」を山賀さんが何故えらんだのか、首をかしげています。多分、日本人のする事をこの中でとりあげたものだと思いますが、客観的に考えると、このアイヌ勘定の話は、日本人がアイヌを馬鹿にしたものだと思います。Aino-manieroといいますが、それは違うのではないかでしょうか。アイヌに言わせると、それはシャモ勘定だと言います。笑い話だといえどもそれまでですが、誰が「誰を笑った話なのでしょう?

わたしは今夏の若小牧での大会に若干の意見を述べようと思っていたのですが、予定どおりに行けない事情が発生し残念でした。アイヌ民話のエス訳一それはエス訳であって、エスペラントの思想の息吹きが通ったも

### (El postarto. El postkarto)

のであるべきでしょう。エスペラントの笑い、エスペラントの怒り、エスペラントの嘆きをういうものに満ちたものでなければならぬ。したならば、どこにエス訳の意義があるのでしょうか。エスペラントの思想とは、感情とは、はたして何か?それほほく・わたしには分かりません。そしてまた、それ自体の追求がなされるHETであって欲しいのです。  
(沙流郡日高町S+o 向井)

10月の中頃、グーテンベルグの観光協会から手紙が来ました。必死で訳した結果、観光に関する案内らしいということがわかりました。

こちらは毎日Tre malvarma, sed mi tre bone fartas, kaj mi letnantas esperanton.

Kun kotaj salutoj.  
Ataya Tomiko.  
(名寄市F-ino 荘家)

LEONTODO の eldono じくろ  
うさまでした。多少 malputar の  
はともかく、内容的にどこかし  
ら意欲的な新しさが感じられま  
した。道内に広く散在する esp-  
erantistojの solidarecoを維持して  
いく上で organoの定期的発行は  
最も重要なものと思います。

(苫小牧 S-to影浦)

若者よ走れ頑張れ、59才の若  
者もまた続くよ！  
(歌志内市 S-to大友)

指導者は、人間性、人格が自  
のを言う、人物がすぐれている  
と、一度そばによるともう離れ  
る事がないですね。たとえば S-to  
新田のような人物こそ指導者に  
似いたる人物です。

(苫小牧市 S-to育藤(4))

エスペラントを勉強したい気持ちは  
充分あるのですが、問題は色々あ  
る。やー並びやニまだ仕事がある。  
他に是非読まなければならぬ本がある。  
七月中旬に一時は「書  
會」をやめた。だから八月号  
を知らぬい孫三人に是非やらせ  
たいと思っている。

(大樹町 S-to米山)

Mi esperas senfinan progre-  
son de HEL. Vivu esperanto!  
(帶広市 S-to 中西)

60の手習をこれから始めるの  
で何分よろしく。(釧路市 S-to福岡)

Espetanto estas mia amat-  
ino jam pliol de 10 jaroj - ling-  
vo studita - sed estas la pl-  
ej simpla, regula, kaj obeemal  
(江差町 S-to北城)

若い力を結集して、力強い運  
動をよみがえらせ下さい。陰  
ながら応援いたします。  
(由仁町 S-to新田)

勉強は長らく中断しています  
が大会には出ています。次  
第に時間的余裕が少しづつ  
出来るようですから、また勉  
強に精出したいと思っています。  
(勇払郡厚真町  
S-to菅原)

エスペラントは、この春三ヶ月  
程触れただけで、ずーと離れ  
ていましたが、また学習したい  
と思います。(札幌 S-to仁熊)

Vere mi partoprenis Lond-  
onon UK-on, kaj volas rapo-  
rhti pri ĝi. Sed nun mi estos  
tre okupita. Bonvolu atendi p-  
or kelka tempo mi petas.  
(遠軽町 S-to屈江)

旭川エス会の復活に努力した  
い。(旭川市 S-to竹吉)

Ciama komencanto mi es-  
tas ankoraŭ (滝川市 S-to岡本)

### 第3回 車組委員会

第1回の次議どうり、1月9日(日)(PM1:00)ま  
ま新年会に發展しそうですので、  
札幌市南2西4中央文化アカデミー学院で

開かれます。雰囲気として、その  
季員以外の方もどうぞ出席してください。  
—事務局—

SINPREZENTO de s-ano Ikutaro Kitago en Esashi,  
kiu bonvolis nove fariĝi membro  
de nia Ligo.

Gesamideanoj!

Saluton de nova esperantisto! Eble mi estas relativa mal-junulo en esperanta rondo; aŭ eble esperantistoj ne parolas agon? Mi estas altlerneja instruisto de angla lingvo, sed specio de 'poligloto' kun scioj pri angla, germana, franca, rusa, korea, norvega, nederlanda kaj mongola lingvoj.

Rilate esperanton, mi konis, de antaŭ nememorate multaj jaroj, pri la ekzisto de tiu internacia, artefarita kaj idealoplena lingvo. Kiam mi eniris Hokkaido universitaton, mi unuafere kontaktis kun iu esperantisto, samčambrano ĉe pensiono Keiteki, de kiu mi akiris esperantan libron. Sed, plue dek jaroj devis forpasi ĝis kiam mi praktike komencis lerni tiun ĉi signifoplenan lingvon. Lerninte dum du jaroj, mi estas ankoraŭ esperanta bebo, kion atestas tiu ĉi 'lamanta' sinprezento, ĉu ne?

xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

OKT. ~ DEC. '71

YYYYYYYYYY F I N A N C A R A P O R T O YYYYYYYY

xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

1971.12.25

enspezo

継 越 金	94,676
HEL 大会残金	8,860
	460
NF料(6月~6月)報酬金	8,400
会 費*	200
寄 附 全額(6月~6月)	500
	¥113,096

elspezo

Leontodo 表紙印刷費	9,000
東 国 納 その他印刷費	3,400
膳 寄 手数料代	1,000
西 洋 納 代	1,062
事 務 用 品 (消耗品)	1,100
郵 送 料 (F)	4,015
ゴ ル ム EV	820
銀 帰 口座開設料	50
	¥20,447

∴ 現在高 ¥113,096 - ¥20,447 = ¥92,649

\*会費内訳 (¥8,400)

{ 69年分 1名  
70年分 3名 } いづれも個人会員から。  
71年分 16名  
72年分 1名

内訳 { 定期 ¥60,000

年会 ¥20,000

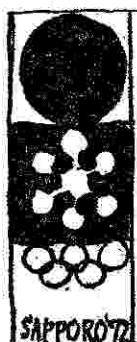
振替 ¥48,600

現金 ¥4,049

XXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX

Granda Kampanjo per kaj por Esperanto

okaze de Vintraj Olimpikoj en Sapporo, '72



Laŭ la propono de s-ro K.Kimura, sin turnis al la varbo de "bonvolaj intérpretistoj" s-anoj Aizawa, Takahaši, Nasu, Sawaya, Ŝimizu, Yamaga(OTARU), Hošida(TOMAKOMAI) kaj Kimura, kaj tiuj estis oficiale al-prenitaj kiel bonvolaj interpretistoj. La 12an de decembro, tiu ĉi tiuj 8 samideanoj kolektiĝis ĉe Kōseinenkin-kaikan en Sapporo por ricevi koncernajn materialojn. D-ro Yamaga prenis memorfoton de tiu ĉi tiuj bonvolaj interpretistoj de esperanto, kiun aperigos ĉi-in A. Nagata sur la organon de UEA "esperanto".

ĈU ĈI TIU TAKTIKO SUKCESOS ?

## KIE ESTU LA PARTO ?

Pratempe, kiam diej kreis homon, ili cerbumadis, kie estu ĝia genera parto, grava por ĝia prospero. Unue kelkaj dioj diris;

"Kion vi opinias pri frunto por la loko? Ĉiu povas facile trovi ĝin."

"Jes, bone."

Tiel oni preskaŭ konkludis, tamen aperis opono,

"Homoj povus generi tro facile eĉ dum salutoj."

Diskuto revenis al la komenco.

"Do, kie ĝi estu?"

Post longa diskuto, ili preskaŭ konkludis, ke ĝi estu en akselo, sed opono "Homoj generus dum amika brakumeto....."

Jen tiel, jen ĉi tiel, dioj serĉadis la lokon por ĝi longe en cerbumado kaj fine venis al la konkludo, ke ĝi estu inter ambaŭ femuroj, kio efektivigis kiel ni vidas nun.

Hodiaŭ ni trovas hararon ĉe niaj akseloj kaj kapo kiel ĉe nia pubo. Tio estas la spuroj de la unuaj provoj de dioj, kiam ili cerbumadis tiel.

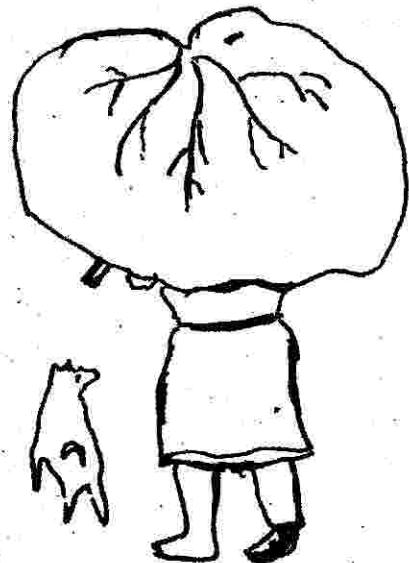
(Tradicias s-ro K. Jae, Securi, Kuširo)

Pri tio tradicias Hidaka'anoj iom alie:

NENIU ESTAS PLI FORGESEMA OL LUTRO

En la Ĉielo dioj kunvenis por diskuti, kie estu la grava parto generi, kiam ili kreis homon. Ili decidis, ke ĝi estu sur la fronto, ĉar ĝi estas grava, kaj endis lutron por informi tion al Dio Terkrea, tiam kreanta homon sur la tero. Tamen la lutro trovis ŝipojn veninte surteren en apuda rivero, kaj tuj ekcasis ilin. Do li tute forgesis la mesagon de la dioj kaj diris, ke la parto estu ĉe la pubo, kiam li venis al la Dio Terkrea. Do la Diometis ĝin laŭ tiu falsa mesago. Tiel ankorau nun oni diras, "Neniu estas pli forgesema ol lutro."

Tradukis A. Hešida el "POPOLRAKONTOJ DE AINOJ" (komp. de Sarasina Genzō, p.15, eld. de Kita-syobō, Sapporo, 1970)



## Hepato de leporo

Aina rakonto  
Tradukis A. HOŠIDA

Unu leporo, ĝoje pro la bela vetero ludis kuri sur la dunoj ĉe marbordo. Gi trovis multajn eūmetopiojn kune ripozantaj tie. Volante al Ŝerci, gi kuris malsupren de la dunoj, alsaltis sur la dorson de unu eūmetopio, kaj saltadis de unu dorso al la alia. Sed ili montris neniom da malsato, nek movis sin.

Fariginte pli aplomba, gi iris iom post iom foren de la bordo, intence premante kapojn ĉi tielante al ili, ĝis gi fine atingis sur la plej grandan eūmetopion. Tiam la granda besto senmove dormanta gis tiam, subite eknagis formaren kaj ankaŭ aliaj akompanis ĝin.

"Idioto!" mokis la granda besto al la leporo sur sia dorso, "Ni venis ĉi tien por serĉi leporon, ĉar ni volas kuraci malsanan filinon de Atujkorohenke (la maljunulo reganta la maron = testudo) per via hepato. Jen vi venas ĝuste por kaptigi memvole!"

Surprizita estis la leporo, tamen diris, "Ha, estas bedaŭrinde por vi. Bonefikan hepaton mi metis sur la monto por sekigi ĝin, la nun portata estas tute senvalora kiel medikamento."

La eūmetopio senkuraĝigis. "Ho, ĉu veré! Tio ne utilas! Mi portos vin ankoraŭfoje al la bordo, do bonvole pôrtu al mi la bonefikan de la monto."

Kiam la marbestego atingis la plagon, la leporo saltis sur la sablon kaj ridegis saltante, dancante kaj mokante, "Kie en la mondo troviĝas ulo kun pluraj hepatoj, hahaha, hahaha!"

(Tradicias S-rino B. Kasīūagi en Sooja)

Rimarko: Tute saman rakonton oni trovas apud Rivero Išikari. Apud Rivero Saru en la rakonto aperas simio kaj testudo, tute same en la japana rakonto. Do, oni povas scii, ke tiu rakonto disvastiĝis de Hindujo tra Koreujo kaj Japanujo.

Eūmetopio: Eūmetopias jubata(Schreber)

En la simila rakonto de Hidaka Monbecu, tradiciata de S-rino E.Hiraga, aperas orcinio(Orcinus orca) enstataŭ eūmetopio.

## アイヌ民話など翻訳状況、私見

星田淳(吉川牧)

LEONTODO N-ro 44 に Rakontoj pri Si Samoj,  
それからあと 2 篇も完了 (Kie estu la parto? と  
Hepato de leporo), 以上 3 篇は更科著「アイヌ  
の民話」からです。なお S-roj 関尾、池本も注目して  
い3 知里幸恵著「アイヌ神譜集」は、今のところ S-roj  
星田、池本がそのオリ作品 "Kamuichikap Kamui..."  
に手をつけています。星田は 11 月半迄、2/3 位  
をやりましたが、訳語、行の分け方 その他、原作が  
詩の形だけにどんな訳がいいか、考ふことが多い。  
原文には韻もないのに自由詩の形でも散文詩で  
いいのだろうが、こ、でやけう才能の問題がてくる。  
詩の形にして、慣例によくユーカラの唱の方、息つき毎  
に行をかえすと、かたうこま切れと万々行数が多く  
なるという問題もある。

それから今まで既に訳が出来ているものも、  
検査、整理してみたいと思う。過去の LEONTODO  
から拾うと小樽の S-ro 早川の作品がたくさん見当  
る。よみ直したうえ、我々の rakontoj に入れたらどうかと思う。  
私の拾い出したものを次に並べてみる。

L. N-ro 4, p18 Ekvido al aino festo

- “ 5. p17 Roko Čaranke
- “ 7. p32 La Urso - Festo
- “ 19 p7 Parolfragmentoj de iu aino
- “ 20 p6 “
- “ 25-26 p54 El (la legendoj de la aino) ---
- “ 37 p25 El forneja babilado ---

## HOKKAIDO POST 50 JAROJ (Trafiko kaj Turisme)

Antau 23 jaroj, en 1948, mi skribis tiun ĉi songon kaj hazarde trovis ĝin ĉe la fundo de mia tirkesto.

D-ro Isamu YAMAGA (Otaru)

En julio de 1998 s-ro Sato, studento ĉe sciencia fakultato de Hokkaido Universitato, restadis ĉe sia hejmloko Aomori kun siaj gepatroj en libertempo. Tiam li ricevis leteron de s-ro Donders, nederlanda studento pri literaturo, kun kiu li jam antaŭe havis korespondadon. Li skribis, ke li nun en somera libertempo vojagas tra la mondo kaj vizitos Japanujon kaj se eblos, deziras veturi en Hokkaido gvidate de la amiko.

Kompreneble s-ro Sato volente akceptis kaj bonvenigis la fremdlandan amikon kaj kune kun li ekvojagis unue al Hakodate tra la juu farita submara aŭtovojo inter Aomori kaj Hakodate, la plej longa tunelo en la mondo. Ili tranoktis ĉe la bordo de lago Oonuma.

La fervojo jam estas tute elektrigita kaj oni bezonas nur 4 horojn por veturi inter Hakodate kaj Sapporo. La fervojo estas plejparte subtera kaj oni jam ne povas vidi transirejon, kiu antaŭe trapasis sur strato, kaj plie neniaj trajnoj estas videblaj, kiuj malpurigis la aeron per nigra karbona fumo. Anstataŭe la surtera trafiko konsistas en pavitaj aŭtovojoj, kaj tie kaj tie oni trovas restadejojn aŭ hotelojn por mangi kaj ripoziri. Alie oni povas pasigi en la aŭto kaj mangi kaj dormi. La junuloj ambaŭ alterne veturigas la aŭtomobilon kaj tranoktas en la tendo.

La sekvantan tagon frue ili ekveturis de Oonuma al lago Toya. Survoje ili trarigardis la marbordon de Golfo Hunka (erpucio). Ĉirkaŭ la lago Toya ili veturis kaj ripozis ĉe hotelo de varma fonto. La trien tagon ili atingis Muroran kaj tie poviĝis inspektis grandan ferfabrikon. En la krepusko ili ripozis ĉe varma fonto Noboribetu. La kvaran tagon ili atingis Sapporen tra lago Ŝikotu. Laŭ invito de prof. Sanada, medicina fakultato de Hokkaido Universitato kaj estro estro de Esperanto-kultura Ligo. Ili tranoktis kaj restadis en lia hejmo. Kelke da tagoj tie ili pasigis kaj rigardis vidindajojn en Sapporo kaj vizitis Hokkaido Universitaton, kiu festas la 150jaran jubileon. Al Otaru oni povas veturi per subtera frajno, 20 minutojn po 10 kaj observi eksterlandan komerecan havenon. Ĉe la internacia laktaj-agrikultura fakultato, Nopporo, s-ro Donders vizitis sian junan kuzon s-ron Snellen, kiu restas por studi en tiu somero, kaj povas rigardi la praaarbaron, ankoraŭ rezervitan.

Oni povas veturi al ĉefaj urboj en Hokkaido per regula aviadilo, du fojojn ĉiutage. Uzante tiun frafikon ili flugis al Obihiro kaj plie superrigardis la nacian parkon Aken sur aerplano. La sekvantan tagon ili veturis al Kusiro kaj Nemuro tra la marbordo de Pacifika Oceano kaj Ohocka Maro kaj plie enlanden ili turnigis al Kitami kaj Asahigawa subrigardante la montaron Daisetu.

## 北海道エスペラント連盟会員住所録

(1971年12月現在)

加盟団体(略称)	連絡先
函館エス会 (HES)	040 函館市田家町12-15, 市川忠方
小樽エス協会 (OEA)	047 小樽市花園3-8-13, 山賀眼科内 TEL 2-7918
苫小牧エス会 (TES)	052 苫小牧市白金町1, 4-8-15 星田淳方
札幌エス会 (SES)	060 札幌市南2条西4, 中央タイピスト学院内 TEL 251-4750, 振替(小樽) 8310
ロンド・ノルド (R N)	063 札幌市琴似8軒10条東1 森竹方 清水寛気付
千歳エス会 (TERO)	066 千歳市幸町5, クリーシベット, ヴェルダ・ドモ内 TEL 01232(3)4830

◎ grupoの欄のIは個人会員を、他は所属のロンドをしめす。

apodo	d r e s o	telefono	grupo
市川 忠	040 函館市田家町 12-15		H E S
井上 久	040 " 松陰町 1-10		H E S
白木 恵子	040 亀田市富岡9		H E S
小田島 栄	049-01 上磯町七重浜 391-10		H E S
国兼 信一	042 函館市花園 20-13	51-0531	H E S
高野 富輝夫	040 亀田市中道9, 北大北長寮内		H E S
高屋 紀恵子	040 函館市入舟町 11-19		H E S
土谷 孝子	040 " 東雲町 国鉄宿舎		H E S
藤原 信吉	042 " 深堀町 26, 301-8号		H E S
吉田 栄	040 " 弥生町 7-4	23-6716	H E S
北城 郁太郎	043 山郡江差町愛町		I

n o m o	a d r e s o	telefon n u m e r o	gr u p o
那 須 荣	049-31 山越郡八雲町浜松		I
桜 井 基 吉	045 岩内町万代		I
石 黒 実	047 小樽市奥沢 5-142	2-6089	O E A
江 口 音 吉	047 " 奥沢 1-24-21	2-3827	O E A
追 分 宏	047 " 汐見台 2-2-12		O E A
大 橋 敬 子	047 " 長橋 1-18-11		O E A
佐 々 木 郁 子	047 " 長橋 3-17-9		O E A
崎 野 洋 子	047 " 長橋 4-2-17		O E A
早 川 昇	047 " 縁 1-17-4	2-0757	O E A
宮 城 由 利 子	047 " 奥沢 1-3-6	5-2359	O E A
宮 林 德 子	047 " 長橋 2-1-15		O E A
山 賀 勇	047 " 花園 3-8-13	2-8016 (自宅) 2-7918	O E A
山 賀 弘 子	047 " 花園 3-8-13		O E A
大 島 俊 之	050 室蘭市水元町 20-6 石川原方	4-1397	I
須 藤 昭 三	050 " 高砂町 1-43-12		I
平 田 岩 雄	050 高砂町 5-9-5		I
渡 辺 智 恵 子	051 " 御崎町 2-15-16		I
梅 木 孝 昭	053 苫小牧市美園町 19		T E S
影 浦 英 明	053 " 木場町 36A1-12		I
北 里 瞳	053 " 山手町 2-1-2		I
木 村 洋 子	053 " 西町 13-12	2-5067	T E S
児 玉 広 夫	053 " 中野 95-1	2-3286	T E S
斎 藤 千 寿	053 " 北光町 4-15-16		[REDACTED]
星 田 淳	053 " 白金町 14-8-15		T E S
星 田 文 子	053 " 白金町 14-8-15		T E S
小 林 二 男	059-15 勇払郡早来町栄町公営住宅		T E S
菅 原 鉄 雄	059-17 勇払郡厚真町鰯沼 88		I
相 泽 治 雄	063 札幌市北37西5, すみれ荘		S E S
青 木 了 子	三笠市幾春別 4	8408	S E S
ア リ マ ヨシハル	060 札幌市大通西10, 北大通アパート	251-5853	S E S
伊 藤 隆 夫	065 " 北18西3, 遠藤方		R N

n o m o	a d r e s s o	telef o n m e r o	gr u p o
稻 村 崇	068 岩見沢市縁が丘21,境方		R N
江 口 正 元	065 札幌市北28西3		S E S
葛 西 藤三郎	060 札幌市厚別ひばりが丘公園通り7-12		S E S
木 村 喜重治	062 札幌市白石町本通り17南1001	861-7564	S E S
黒 川 恵美子	065 " 北7東13		R N
ゴトードン・ハル	062 " 白石平和通り6		S E S
小 林 正 明	062 " 美園5-4中央荘	833-708	R N
斉 藤 和 子	062 " 丘珠664-1099		R N
斉 藤 千枝子	063 " 琴似山の手2-10		R N
笠 村 貞 雄	062 " 菊水上町100	811-6517	S E S
佐々木 成 子	062 " 月寒東2-3-71		S E S
佐 藤 恵 子	063 " 新琴似1.1-1		R N
佐 藤 雅 博	065 " 北13西1 欠方	721-2768	R N
沢 谷 雄 一	063 " 琴似町宮の森811-4雪印育英寮	611-1467	SESRN
清 水 寛	063 " 琴似8軒10条東1森竹方		R N
杉 山 純 次	063 " 新琴似7-12	721-2688	S E S
関 尾 憲 司	065 " 北21東1.2,姫嶋方	711-7729	S E S
関 口 美津江	065 " 北42東2		S E S
高 橋 要 一	062 " 豊平5-9,道當住宅993		S E S
田 村 弥 忠	065 " 北16東5 , 大町方		I
戸 田 恵 子	060 " 南15西17 , 鈴木方	551-2748	S E S
那 須 博 文	065 " <del>北15東18</del> ,若草荘		S E S
仁 熊 義 則	065 " 麻生町17-15,岡田方		I
西 館 京 子	065 " 北36東1 , オホーツク荘		R N
野 元 哲 浩	060 " 旭ヶ丘西4	511-5506	S E S
福 土 蹤 士	065 " 北13東1,板橋方	711-4843	S E S
藤 井 重 雄	062 " 真駒内上町2,B1-4		S E S
松 間 耕 二	062 " 真駒内東町17		R N
松 浦 豊	" 美園9-1,八条アパート		R N
三 浦 邦 子	063 " 琴似発寒市営住宅1-206	551-2932	I
三 沢 正 博	060 " 南23西12 , 教育大官舎	771-2833	S E S

n o m o	a d r e s o	telefonu nero	grupo
嶺 正子	061-31 札幌市篠路町上篠路 109-131	771-2833	SESRN
山岸 悅子	060 " 南7西1		SES
山崎 久藏	065 " 北26西8	711-2462	SES
山口 紀代美	060 " 南10西7	511-2891	SES
吉原 正八郎	065 " 麻生町16-2	711-7764	SES
池本 盛雄	066 千歳市本町 4-7-6	3434	TERO
井手 裕子	066 " 新富1-9-1	5397	TERO
市川 祥子	066 " 信農町3		TERO
近藤 哲夫	061-14 恵庭市漁町 185	3065	TERO
佐々木 雅彥	066 千歳市幸町4		TERO
島影 均	066 " 朝日町6		TERO
高杉 キミ	066 " 新富3-3-85		TERO
中川 融子	066 " 朝日町5		TERO
中里 和夫	066 " 春日町 1-1	5181	TERO
藤岡 明美	066 " 日の出丘 727	9477	TERO
藤岡 里美	066 " 日の出丘 727	9477	TERO
新田 為男	062-11 夕張郡由仁町三川		I
竹吉 正広	070 旭川市川端町 3-6		I
大友 鞄一	073-04 歌志内市本町 77		I
岡本 義雄	073 滝川市朝日町 142-24		I
向井 豊昭	079-25 079-32 沙流郡日高町字三岩		I
辰巳 清美	080 帯広市宝来		I
中西 隆嘉	080 " 南町9線 31		I
福田 節男	085 釧路市愛国 39-191		I
浜田 国貞	088-14 厚岸郡浜中町字浜中市街地		I
米山 寅吉	089-21 大樹町上萌和		I
	089-18 " 晩成(夏期のみ)		I
津村 初雄	090 北見市小泉 133-27		I
荒家 登美子	096 名寄市大通北4		I
堀江 精一	099-04 網別郡遠軽町大通北 1-1	3356	I

nomo	adreso	telefonomu more gupo
長岡宏昭	064 勇払郡鶴川町鶴川小学校内	TES

Reveninte al Sapporo ili trovis la malfermen de la somera kongreso de tutjapanaj studentoj, kaj s-ro Donders ĝeestis tie akompanate de la amiko Sato. Li salutis al kunvenantoj ĉe tiu bona okazo. Li rakontis, ke li nun vojagas tra la mondo per la internacia lingvo Esperanto kaj priparolis sian impreson pri Japanujo kaj precipite pri Hokkajdo. Pli ol duono da aŭskultantoj povis bone kompreni lian paroladon, sed por certigo laramiko Sato tradukis ĝin japanan lingvon kaj ĝiuj aplaŭdis.

Kiel vi vidas, ili ambaŭ tute agrable kaj gaje travojaĝis en Hokkajdo kaj revenvoje per vagonaro al Hakodate 4 horojn kaj tra la submara fervoja tunelo, ~~kiun~~ <sup>estigis</sup> antau 40 jaroj malfermita, finfine revenis hajmen posttagmeze. En reciprokaj koroj ~~kiun~~ <sup>gajaj</sup> memoroj ili prenis manojn por adiaŭi promesante baldaŭan revidon.

## 名 ロンドの Zamerhot 祭 活動 RONDONORDO 報告

12月11日(土)午後

6時半より、北大クラーク会館集会室にて、既に創立1周年記念をかねて行なわれました。 bieroで乾杯し、1年間のロンドの活動をふりかえってみました。そのあとトラジアーコンサートなどで楽しく過ごし、さらにいつものkafejokに流れ、時間までねがりました。参加者8名。

RNは11月11日で4ヶ月から便へいたてkesto "A Practical Course in Esp." を終り、現在例会では大学書林の"やさしいエスペラントの読みもの"(¥450)それに最新刊の名著"柏文エス試験研究"(¥800)が使われています。'72年は1月13日(木)(午後6:30~9:00)北大クラーク会館集会室より例会がはじまります。

## 札幌工入会 12月12日(日)午後1時

ヨリ中央タヒスト学院で2-3回、秋の講習会を終了した2人のnovaj samideanojをふくめて全部で10名が出席し、約3時間半にわたるエスペラント談義に花を咲かせました。とくにSESの最高幹メンバーである藤女子大のprof. Yamasakiがおいて「たゞ2-3つ、いろいろと

おもしろいお話をしてくれました。山崎先生は約3月には日本に来、今の大雪を退散させ、立派には、郷里の舞臺へおもどりにぎるものです。

札幌工入会の1972年の例会は、1月22日より毎週土曜日(18:00~20:00),今までどおり中央タヒスト学院(南2,西4, tel. 251-4750)で開かれます。

## 北海道系連 報告

函館エス会は11月27~28日会場を札幌大通のこども工場エス会は12月12日夕方3時~5時、新星の子オエス会は12月19日に苫小牧と合同で。詳しい報告は次号。

本HELの会員住所録ができました。現在104名。聖蘭のsamideanojの五つさいどもあらず個人会員ということにしました。できるだけ早く団体加盟ということに手続いくたさう希望します。  
本どういうわけか2重・3重にいろいろな仕事があり集中してきて、ツアーやそれそこでとにかく多忙な時間がでた。機関紙の發行期間を年間2回と独立させ、強力な發行体制を東京は確立させたいものです。(SAWATA, Y.)

\* FELICAN NOVJARON AL ĜIUJ!

# EN HAVO

北海道エスペラント連盟  
中央タイピスト学院内  
TEL 251-4750  
振替口座 (小樽)  
17075

Ronda Novado

LEON TODO n-ro	年	月	日	発行
発行所	北海道エスペラント連盟	060	札幌市南4条4丁目	中央タイピスト学院内
		TEL	251-4750	
編 集	沃谷 広一 (北海道エスペラント連盟)			
	佐藤 菜子			